

# 授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	習志野市立第六中学校
-----	---------	-----	------------

## 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 学校平均は、毎年度全国平均を上回っているが、記述式で無解答率が高いものが、全ての領域にある。
- 正答率が50%を下回っている問題が「関数」と「資料の活用」にある。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

生徒の自己肯定感を高めるために、「自分に自信をもち、自分の考えや思いを表現するとともに、他者のよさを認め、進んで関わり合う生徒」を育成することが、学力の向上につながると考えた。

## 3. 具体的な実践

- 日常生活と関連した内容を取り入れ、「生きる力」を育むための授業改善、学力向上を目指す。
- 校内の研究の視点をもとに、授業を行う。

数学科 研究の視点	実践モデルプログラム
<b>視点1〔学習活動の工夫〕</b> ①課題設定、課題提示 ②実生活と結びついた学習内容	○見いだす「疑問をもつ」「課題を明確にする」 ○まとめあげる「学んだことを確実に身に付ける」
<b>視点2〔学習過程の工夫〕</b> ①基礎・基本(基礎学力や基本技能等)の定着	○見いだす「既習の内容や方法を振り返る」
<b>視点3〔場面設定の工夫〕</b> ①話し合い・学び合い・教え合いの場	○自分で取り組む「思いや考えを基に創造する」 ○広げ深める 「新たな考えに気付く」「友達と互いに学び合う」
<b>視点4〔学習形態の工夫〕</b> ①個人、ペア、班、グループ、一斉	○自分で取り組む 「解決の見通しをもつ」「自分の考えを形成する」 ○広げ深める「自分の考えを伝える」
<b>視点5〔評価の工夫〕</b> ①自己評価の仕方 (振り返り、まとめ、評価カード)	○まとめあげる 「新たな疑問をもつ」「学んだことをまとめる」
<b>視点6〔ICT機器活用の工夫〕</b> ①全体でICT機器を活用する場面 ②個人でICT機器を活用する場面	○自分で取り組む「情報を収集し調べる」 ○まとめあげる「思考の過程を振り返る」

## 4. 成果

- 実践モデルプログラムや研究の視点をもとに授業計画を立てることで、授業の流れやポイントを押さえて、授業を行うことができた。
- 粘り強く問題に取り組む姿勢が見られ、説明やまとめを自分の言葉で表すことへの抵抗感が減る等、生徒の自己肯定感の高まりが見られた。

### ◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 鴫田 拓也）

自己肯定感を高め、学力を向上させるために、校内の研究の視点を6つ設定するとともに、『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を、全ての教科等の学習指導案に記載し、学校全体で研究に取り組んでいた。その成果として、教員の授業改善につながり、全国学力・学習状況調査の結果に向上が見られた。